



岡山SRH研究会 会報誌～第6号～



ひと足はやく桜も咲きそい、春日のどかな季節となりました。
皆さま、いかがお過ごしでしょうか。
年度始めは、何かと慌ただしく過ごされている方も多いかと思います。
そんなときこそ、春の光や彩りに目を向けて、季節を感じ、
心温まる一瞬一瞬を、大切にしたいものですね。
桜の花びらがひらりと舞うように、皆さまのもとにも、小さな幸せが舞い降りますように・・・。
(運営委員会 会報誌係)

第12回研修会報告

3月18日(日) ゆうあいセンターにて、岡山SRH研究会 第12回研修会が開かれました。

今回は、清心女子高等学校の生物教諭、秋山繁治先生をお招きし、「高校生に『性』をテーマにした授業をどのように展開するか」というテーマでご講演をいただきました。秋山先生のお人柄が表れるような心温まるお話をたっぷり聞くことができました。生徒の立場にたって、より分かりやすく、より身近に感じられるような授業展開による教育を実践しておられる秋山先生のお話は、わたしたち大人が若者に働きかけるときの、重要なヒントもたくさん与えてくださり、学び得ることの多い大変充実した時間となりました。ご講演の内容の一部を、以下に紹介させていただきます。

講演 「高校生に『性』をテーマにした授業をどのように展開するか」

講師 清心女子高等学校 生物教諭 秋山繁治先生

学校での取り組み「理系進学支援」について

*清心女子高校は、スーパーサイエンス校(理系で活躍する人を育成する学校)の指定を受けたこともあり、女性の理系進出を支援する計画を提案中。女子高生の理系進出について取り組んでいるのは、本当にやりたいことができるように支援したいという思いから。

先生の行う「性教育」について

*先生の本来の仕事DVD「カスミサンショウウオ繁殖の取り組み」の上映

専門の両生類をバックボーンとして、その生殖を通して人間の性を考える性教育を行っている。

イモリの多精受精(1つの卵子に複数の精子が受精する形)や、受精卵の細胞分裂から孵化までを自宅で撮影したビデオを資料に用いる。受精初期の卵の死にやすさ、一卵性双生児のでき方など実感できる。

*生徒の反応は、教科書と同じだと感動する子が多い。実際に見ること、身近な人の実験から学ぶことでは、かなりインパクトが違っている。

*「生命」シリーズ授業を開講。いろんな分野の専門家を講師として迎えている。

講座の視点は、いろんな考えや生き方をしている、自分の生き方を考える、自己肯定的な姿勢を貫くということ。だまし絵やポスターを見せ、同じ情報でも大人と子ども、人によって受け取り方が違うこと、また感じた事を話し合うことでその違いを実感させている。

*高校2年生からのアンケートより・・・

「危ないことは危ないと教えて欲しい」「堂々と話して欲しい」「具体的な相談先を教えて欲しい」

*高校3年では性体験率30%、反面半分は性体験がない生徒の現状で、学校の役割として何をすべきか。

*今希望を持つ生き方がしにくいと感じている人が多い印象。

*現代の性教育は、大人が正直に伝えることが必要ではないか。

*テーマとしては、生徒の身近で起こったことを選ぶようにしている。



[Q&A より]

生命観を持った人を育てて、医療系に進んで欲しいと思っている。大学に入って不適應をおこす人もいるので、学力だけで進んだための問題は起こして欲しくない。ただ、失敗してもいい。何かをしたいと思った時、変えていける環境が必要。今、何がしたいか、高校時代に考える時間が少ないのではないか。

普通の子達に目標を持たせることが必要と感じている。

日本は理系の女性が世界的に少ないが、社会が作っていることに気づかなければいけない。

私は、現在2高校2大学の相談室で相談業務を受け持つカウンセラーをしています。

いつも考えていることがあります。目の前にいる子どもたちになるべく心を寄り添わせてあげよう、大切に思っあげよう、ということです。なぜなら、そのように考えることができたケースは、すぐに解決に結びつかなくても、何となく見通しが立つと感じることに気がついたからです。そのためには彼らが抱えている問題をできるだけ理解してあげることが第一だと思っています。ところが、ちょうど母親の年齢ほどの私には、経験したこともなく、到底理解しがたい話が彼らの口から出てくることがあるのです。その大方は性の問題です。性同一性障害、同性愛、デートDVなど。風俗でバイトをしているというケースもありました。それでも、誰にも相談できず一人で悩んでいた彼らが、ひらひらと蝶のように私のところに迷い込んで来たのなら「よ～来たぞ!」としっかりと受け止めて一緒に考えよう、と言います。



頼みの綱は上村先生をはじめ SRH 研究会の諸先生方です。性の問題を抱えやってきた子どもたちを前に、落着いた対応をしているのかのように見せながら、実は心の中では半泣きの私に、どうか知識をお授けください。これから色々な研究会に参加し、学ぶ機会を増やしていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

上村茂仁先生のコラム

～若者に蔓延するデートDV～

当院には緊急避妊薬の処方や低用量ピル(OC)の処方希望の患者さんもたくさん来られます。

この緊急避妊薬の処方もコンドームを最初からつけてくれなかったり、デートレイプの症例であったりすることが少なくありません。また避妊でOC処方を希望する女の子の場合のほとんどは、彼氏がコンドームをつけてくれないことが多く、性感染症の問題から、コンドームは是非ともつけるように話をするのですが、なかなか彼に話すことは難しいと言います。

私やスタッフは、患者には、ピルを飲んでいることを彼氏には話すなどと言っています。ピルを飲んでいることを知った彼氏は、まずコンドームをつけなくなることが、今までの経験から判っているからです。

精神的な悩みを訴えてこられる女の子も多数居ます。家庭での問題、友人との関係などいろいろな原因を認めますが、やはりその中でも彼氏との問題、DVの悩みなどを話す女の子は少なくありません。

そんな女の子たちのパートナーに、クリニックでよく会うことがあります。彼女が余計なことを言わないか、また男の医者だから彼女に何かいやらしいことをしないかを確認する為なのか、よくわかりませんが、診察室の中にまで一緒に入ってきます。そんな男の子たちは、普段はとってもいい子で、ちゃんと挨拶もするし、なかなかの美系が多かったりします。ちゃんと時と場所をわきまえて行動しているわけで、決して病気などではなく、計画的に彼女を束縛し、言葉や肉体的な暴力で支配しているのです。



そんな子達はもうすでに暴力で相手をコントロールできる事を学習し始めているわけです。男の子は自分も不安なので、その不安や恐怖を暴力という形で相手をコントロールして無くそうとしているわけです。

また女の子は家庭環境の問題、両親や友人の関係から寂しい気持ちを持った子が多く、各学校に半数は居ます。

また気になるのは、成績や友人関係に問題は無く、家庭でもうまくやっている子の中に、「寂しい」と感じている子が多いことです。親や先生に喜んでもらえるように頑張っている子が、自分の居場所が無いと訴えます。そんな子供たちに好きな彼氏が出来て、その人に依存し始めた場合、自分の居場所は彼になります。ですから、暴力を受けても彼に従うことで自分が孤独にならない、一番安定した関係だと思っている子が多く居ます。

夫婦ではなく恋人同士なのだから、別れたら簡単ではないかという一般の意見が通らない理由はここにあるのです。

かふえ101について

「かふえ101」では、性感染症、エイズ、避妊などについて初心者が学べる場を継続的に提供する予定です。

主催 岡山 SRH 研究会、A2、後援 岡山市（予定） 6 / 1 ~
場所 夢カフェ（岡山駅西口から徒歩3分） HIV検査
内容 カフェ（A2）、音楽 + 朗読（SRH + A2）、 普及週間
資料提供（SRH、岡山市保健所、A2）
音楽でなごみとオシャレな感じを演出しています
カフェで若者同士が話せ、資料も自由に持ち帰れます。
日時 6月3日（日）1時から6時予定（お好きな時間にどうぞ。
高校生も参加できる時間帯にしました）

連絡

次回研修会は、5月20日（日）に開催します。
別紙案内をご確認ください。
岡山 SRH 研究会のホームページがアップしました。
ぜひご覧ください

http://www.std-shc.net/srh_research/index.html

（「性感染症情報サイト」の中にあります）

会報誌第6号の作成に、
ご協力いただいた皆様に
心より御礼申し上げます。
（運営委員会 会報誌係）

